

## 4. 今後10年を見据えた技術ポテンシャルの検討(3)

### 技術ポテンシャルマップ作成にあたっての考え方

#### <記載内容>

- ナノテクノロジー・材料技術で実現する2022年の姿(社会・ユーザ視点)を想定して、応用先・適用先ごとに記載
- 応用・適用領域の明確な“デバイス・材料関連技術”とそれらを支える“基盤的技術”に分けてマップ化
  - ① デバイス・材料関連技術
    - 横軸: 応用先・適用先を産業分類を参考に横断的にカバー(応用先をより明確にするため、上記に『エネルギー』、『医療』を追加。)
    - 縦軸: マッピングの目安として、デバイス～材料の軸を設定より適用先の広い材料関連技術を下部に記載。
  - ② 基盤的技術
    - “加工・プロセス”、“シミュレーション・設計・理論”、“計測評価”および“安全性”の4領域に区分して、各技術をプロット
- それぞれの技術に対してポテンシャルを具体的に記載
  - 2022年における技術スペック、達成レベル

#### <全体構成>

- 基盤的技術を下部に、応用先・適用先が比較的明確なデバイス・材料関連の個別技術をその上部に配置することで、基盤的技術と個別の応用技術とが効果的に組み合わせられることにより、2022年に期待される姿が実現するという考え方を示す。